

資料(12)

農青社「吾国に於ける革命の完行に就て」(昭和六年(1931)十二月上旬発行)

(一) 切迫せる状態に直面しての今日の問題としての革命の把握

前説的緒論的のことを論ずる必要は毫もない。只切迫せる状態の一証として、次の挙例によつても明瞭である。最近伝ふところによれば、四千の士官が皇族秩父大尉を擁し社会ファシスト、クーデターを敢行せんとした事実が曝露した。社会ファシストの勢力は膨大となりつつある。合法的無産政党はファシストの勢力増大と共に或は勢力増大の爲めに顕然これに参加協同する形勢が看取される。(社会党の純乎たる国家主義への転向、労働大衆党指導部の社会ファシストに対する暗黙の諒解、農村に於ける日本村治派同盟の国家主義の鮮明化、滿蒙戦争を契機とする国家主義学生運動等に見よ)、即ちファシストは滑稽なる国士的ファシズムから社会ファシストに転進すると共に、近代化され、社会革命的傾向に赴くと同時に崩壊せんとする資本主義のあとを受けて国家主義樹立の爲に準備しつつあるの様相である。更に、共産党は党の最高組織が投獄によつて崩壊したのち、今日下級細胞は独自の軍事的労働ソヴエトの樹立をスローガンに民衆層を攪乱せんとする計画を蔵するかに見られる。況んや民衆の経済生活の益々困難と政府的重圧の増大による一種異様な社会様相については証明するまでもない。

吾々無政府主義運動の分野にあつて、革命は常に今日の問題である。けれども、そこには『全的解放』と言う歯止がある。煽動的原因から起つた民衆の問題たるの位置に置かれて、運動の様態が所謂啓蒙派となる。理論的には革命を承認するが、実践的には所謂今日の問題として革命を把握していない。だが、吾等は今日厳然と、啓蒙派的運動を精算せねばならぬ。吾々は日常闘争主義を否定するが日常に於ける闘争を否定しない。それと等しく啓蒙運動の重大性、その解放運動における基本性を十二分に把握するが所謂、啓蒙主義を排撃する。

これを換言すれば、今日の問題として革命を把握すること、これからおこつて来るところの一切の実践運動でなければ駄目だ、と言うことである。宣伝の爲の宣伝主義的傾向の排除、過程的、スローガンの排除(農村に於ては、自給自足とともに、直接に収用を煽情すべきだ)等々。この、今日の問題としての革命の把握について一言すると、吾々自身の存在からして革命に應ぜしめよ。『能力に依じて』主義の否定である。凡ての吾等は生活のルーズを精算せよ。

吾等は殆んど万能であるべく努力することが緊要である。絶対能力主義の昂揚である。凡そ生活のダダは革命家にふさわしい生活でない。総ての意力を革命に集中することが素より必要であつてそれはただ実行されねばならぬ『能力に依じて』主義の否定であり、

『全能』主義の確立である。

斯くして吾々は、吾々の意力によって、社会状態そのものを作り出す。社会状態は待望主義によっては現われない。革命のチャンスは吾々は自身の手で作出す以外にどこから齎らすことが出来るか。とりわけて、所謂『切迫せる状態』をして単純暴動（或は政党的革命）の気配からアナキスト革命たらしむる社会状態を作ることは吾等に不可欠である。吾々はこの意味では、有りのままなる社会状態を公正に認識するの要がある。

今日の状態を以てすれば、アナキスト革命は殆んど絶望的なことを正しき評言とする。

さらばこの社会状態を黒き動向に転向化するの任は、今日、吾等の全部が負担せる負担であり、それは只強力にして不屈なる努力によって達成するのみであることを、強硬に再認識すべきだ、と附言する。特に農村に於ける共産党は理論的マルキストでは殆んどなく止むに止まれぬその情熱が表面的に激化する赤色運動に一身を投ぜしめたのであって、青年は青年の考うるが如き新社会（自由・共産の）がボルによって社会に実現するかに考えているのであって、明確なマルクス青年ではない。

吾々はこの青年を吾が陣営に獲得せねばならぬ。これ等の青年は村に於ける急進分子にして活動的社会主義者である。吾等はこの青年をボルに売りわたして、残れる意気沮喪せる青年に働きかけても、殆んど効果を見ざる場合が多い。

村に於けるマルクス青年（都会より帰村せるインテリ学生は除外して）獲得は大なる吾等の職責である。猶インテリ学生層の獲得は社会的に黒色思潮を作る上に於て、確かに何等かの貢献があるものである。が実践力に於て期待すべきものあるや、否やは別問題である。これらへの働きかけ（村青年にも同じ）は、その共産党への引力される理由が現存するロシアに於けるボルシエヴィキの勝利並にロシアの偽瞞せる宣伝によって、先づ共産党に傾く心理的準備をなされるのが通常である。それ故、ロシアの真相曝露は非常に重要である。

ボルシエヴィキは次の言葉に集約せられる。『ボルシエヴィキは資本主義経済制度をもつて、最も発達した生産様式として認識する、その様式とは集中化され大企業化された、資本主義の最高発展である。この集中化され大企業化されたものを党の独裁下に移した。』

これ以上でも、以下でもない。この集約された一節はボル批判の重要な闘争の為に役立つことが出来ると信じ、ここに転載した。ロシアはこの資本主義最高発展を見ずに崩壊した。ボルの五カ年計画は資本主義時代に実現すべく、実現ならざりし大企業化と集中化を今日実現せんとしたものに過ぎない。

これが行なわれれば始めて漸く独裁（国家資本主義）が実現するものであるが、それすら不可能である。即ち生産手段の産業例えば重工業の如きは集中化し大企業化することが出来るが直接消費する日常必需品は、いかに規則、統制を行なうとしても、大量的集中大

企業化できぬ性質のもので、五カ年計画は現にこの暗礁に乗り上げてネップに再退却しつつある。

以上は附言的に一言する次第。

この章の全意義は、その命題の示す如くに切迫せる状態の確認及び最も重要な現時をいかに吾等は動向せねばならぬか、それは今日の問題として革命を把握することからする百倍の真剣なる重大なる運動の再認識である。

（二）都会に於ける無政府主義者の任務についての確認

啓蒙は常に重大であり、全民衆の中に思想の拡充を計らねばならぬ事は必然である。然しながら客観的社会的状態に應ぜざる啓蒙一般は反響を得ること不可能なるか、或は啓蒙された結果は単なる無力と終る。動的革命的なる社会動向を作り出すことは、絶対に不可能である。ボルシエヴィキは既に二千の犠牲者を出した。民衆層は力をもった運動に對し注視する。単なる文化的理論は時代に對して迫力なきものである。

プロパガンダは文化的に行なわれた場合は殆んど一顧の価値も生じない。力が必要である。それは社会に大胆に示されねばならぬ。この意味に於て運動の主力は今日一大転機に立っているのだ。空間運動から実形運動へ明確に移行せねばならぬのである。

吾々には基礎がある。而もそれは相応有力なる基礎である、全国三府四十三県それに散在する七百の同志は多くは過去十年間の無政府主義運動の多難なりし歴史過程を踏んで来たところの人々である。殊に輓近数県数地方に於ける動向は確実に革命を今日の問題として把握せる直接革命運動の様態が看取せられる。

所謂社会革命を行なわんとする充分なる意図に接し得る。それは当然だ。

吾等は永き準備時代を地方人として送ったのではないか、直接民衆に接しつつあったではないか。

さらば吾々をして揺籃より出でしめよ。地方人と共に革命を迎えるために最先駆して空間的形態から、実力運動に転向せしめよ、それは何であるか、ここに吾々が革命を今日の問題として把握するに當り兩個の問題あり。

革命は数多の今日に於ける努力の集積と飽和であることは論なきも（民衆が蜂起し然るのちに革命運動あるに非ず）今日と明日とは別なり。今日に於ての吾々の責務は、民衆への力の確示である。即ち、テロルを重点とする運動の諸発展である。それは全く時宜に適するものである。

文学的ニヒリストの社会革命性なき、絶望的テロルは採らず。またテロル至上の陶醉と小さな英雄主義を拒む。飽くまでテロルは社会革命の動向として社会テロルたることを尊重せしめよ。勿論、不良的テロルを唾棄することを宣揚す。以て範とすべき社会的に行動せるロシア虚無党の対支配階級的恐慌運動である。虚無党の血は吾等に通じ吾等は行動規範に於て虚無党に学ぶ。それは実に何等の私心なき革命運動のある時代に於ける一箇の翼であった。かかるグループは既に結束されつつある。

政治闘争を否定し、日常闘争主義を排撃し、文化的、理論的啓蒙時代が過去の問題たるの確認に於ける今日、社会テロルの運動的主力化は当然であり、これを措いて吾が行くのは奈辺にあるか、それは昂奮であるか否ウルトラであるか、否冷静に達観して生る可き至大なる運動状態に於て要求されることに過ぎない。

社会テロルは民衆の模索と一致する。これは民衆に深刻なる真の動揺をおこす基礎である。吾等の目標は支配階級の一切にある。現に社会的事件が審議されつつある。検事刑事警察行政、警視庁、県警察部、参謀本部等に向けられる。爆弾等による破壊及びその当事者への陰謀。企業に対する重大なる損傷を起こす行為、積極的資本家への警告及びその実行。銀行金融中枢の混乱化の為にする行為、市庁行政組織ロシヤ、徴税官庁。行政内閣の各員、等々それは多々あつて一々表示すべきでない。これに符合して、四人の同志によって護られた、虚無党秘密印刷所のごとく、吾等自身の秘密印刷所を設けよ。それは全ロシア国民の熱望であつた如くに吾国の全民衆の熱望する革命新聞たるの位置にある。新聞の任務は、恐怖行為に全民衆の注視を集めるに非ず、無政府主義による革命と建設を全民衆に訴えることにある。

吾等は特にそれに當つて「小社会建設」の目標を明示せねばならぬ。大社会観念の否定である。今日の農村を基礎としての工業農村をつくらねばならぬことの強説なからずんば殆ど新聞の使命は確乎たらず、都会も農村も、その何れをも否定するの思想に樹立せねば駄目だ。これは特利に執拗に強調される可き第一義のものたることを確認せよ。

社会テロルは社会の単なる一般的攪乱を期待するのみのものでなく、これを契機とする最大に明白なるプロバ・ガンディングの為に社会テロルたるの意義を確立する。

社会テロルは権力の否定、その無力化の為めの闘争である。それは万雷の如く社会を震憾すべきである。社会テロルが窮鼠に非ざる社会革命への堅固なる主脈たることを告知する為めには、一切の線香花火的現象であつてはならぬ。熱せざる単小テロルは却つて支配階級をして勝利を謳歌せしめ、社会テロルはその最も執拗なる継続的努力あるところにのみ屈服せざる数年に亘る行為あるときにのみ多大の効果を結ぶものである。革命的諸グループは決して崩壊してはならない。

これ等の社会テロルの中枢激化の土地は一方的ならざるまでも都会にある。政治企業を中心たる東京は最もその激化を要する。商業都市たる大阪(神戸をも含む)、北九州もなお、社会テロルの舞台としては、鉾山地方、軍需工業地方、軍港兵營に於て活動を見る。

農村に於ける無政府主義者は、その農村の任務に多忙なるときこれ等の社会テロルの責任は主として、都会無政府主義者の双肩に負担せられる。

都会に於ける無政府主義者の任務についての確認は、今日の問題としての革命の把握その必然性的帰結としての実力的社会テロルの継続遂行にある。それは社会情勢上当然であつて革命の条件である。無政府主義運動の各分野はこの当然なる転向を劃しつつあるが吾

等はこれを全国同志に知悉せしむる義務をもつものである。

(三) 農村に於ける革命運動の進展へ

農村に於ける現状は一地方的(数カ村郡の地理的結合によるある区画)に隆起することが不可能の客観的情勢にある。然しながら有能なる同志の地帯は、この不可能を目指して猛進しつつある。その数地方をあげることは可能であるのである。その或る地方に於ては革命を今日の問題として把握する。この一般的傾向を農村全地方に一般普遍化することが命題である。農村に於けるその困難は言語に絶するとは言えそれを克服することなしには一切は不可能である。而して、一地方内の各地に同志を樹立することと並列して農村には全村的動向を確立せねばならない。

全村運動の動向は今日確立されていない。保守的農民を多数に全村運動に動員することが不可能であるなら、結局無政府主義革命は成立し得ない。が今日不能であることは明日不能であることを示すものではない。それは打破される困難に止まる。多数を全村運動に動員せずば、吾が方法における革命は運命的に成功するのほか、確乎たる成功の期待はない。無論、全国各地が全部的に左様なる可能性があるとは信じないがかかる全村運動的土地が全国的にみて相当に樹立されるを以て満足する。その理由は、すべての全村運動的土地の動向は、極めて速にその付近に流布拡大する可能性に富める故であるに他ならない。全民衆へのアナキズム拡充の問題についても、全民衆と言うも、それは数量的全民衆を指さす、及ぶかぎりの大多数の意たることは明瞭なり、全民衆の悉くが思想特に将来すべき新社会概念を把握することの拡充の努力はわが燃ゆる意欲たり。ここではただ全民衆への拡充を過去完了的に解意せずと言う意味を明らかにせるのみ。

農村に於ける同志の獲得については既に存在を明かにせる社会的青年の奪取にもあることは既に第一章において切言した。その他、全村的動向について青年団その他への潜入についてはこれに触れず。

ただここでは農村における陰謀団の確立についての注視を促す。農村一般に於ては、革命は概ね明白の問題として把握される。その理由を借問すれば常に農村の客観的情勢の反映なることを応える。それを打破する方法はないか。躍進する何等かの手段はないか。最早や吾々は、明日への過程としての今日であつてはならぬのである。

革命は今日の問題である。切迫せる情勢を確乎と把握するとき、農村における運動は直接それに応ずるにある対応が講じられるべきことは論なきところである。

(四) この帰結としての無政府革命のわれ等が方法

まづ一九三二年以降においては都会その他において社会テロルの攪乱運動が頻発するべきことである。さきに吾々は現下の動向として社会テロルを準備すべきことを決論した。それは準備の後実践される。吾々はこの実践的、力量的行為を中継として都会民に無政府

主義の全般、収用的革命の鼓動を知悉せしむる。その準備は遅滞なくすめられつつあることを同志は認識されよ。特に農村に於ける吾が同志の注目を促す、農村に於いてはその応策が講ぜらるべきである。都会的テロルに呼応して、その立場にある諸国はプロバガンダに於ては勿論革命的なることは当然スベインその他に於て見るとき一個の秘密的村テロルを構成し、その地主、官庁、徴税、その他村生活の連断物一切に対して宣言し行爲する必要を頓に覚ゆるものである。それを契機として、秘密出版物等により農民に革命思想を知悉せしめよ。吾々は広汎に社会の動向を変化し激成せねばならぬ。

一県の結合、一地方郡の結合は、今日即座に緊急である。一地方郡、一県の同志の革命的結合なくては社会革命は絶望である。その連絡は、今日の問題としての革命に策応する真剣なる同志により協議されねばならぬ。いわゆる連絡に非ざることは理解されるべきである。

かようにして連絡されたる数地方、県を吾々は現にあげることが出来るがそれは三府四十三県の凡てに於て為されねばならぬ。直接革命を中心としての策謀的協議に於けることの出来る一県の結合は直ちに於て行なわれねばならない。一県、一県の蜂起は一革命として形成される、ある革命の単位である、地理とその軍事的活動の何如によつては一地方郡も、また有力なる革命単位である。

都会的テロルと農村の秘密団体との行爲は一般民衆層に無政府主義が傾聴せられるべき立場を取得する。而してこの立場は収用革命並に建設についてのプランを民衆に明示せられることに充當すべきである。特に建設のプランの告示は社会状況の上に頗る重要なことを容認す。

この一切の結果化されたものに依り吾等は地方に於て革命的全村運動の形成を諸同志に求める。チャンスは同志が作る以外にみちはない。ある潮を高潮せよ。その最高度に於て——チャンスを振う。民衆協議会的方法により自由コンミュンたることを内外に宣言せよ。黒旗を樹てるべきだ、それはその刹那に実行せられる。勿論次の計画は熟さざるべからず。

一地方的蜂起は軍事的に脆弱たるを免れず革命思想は虐殺すべくない。が然し地方人員は軍憲によつて虐殺を見ること明かなり。勿論、全国数地方は呼応して蜂起すること等を俟たず。この為にある同志はその間の革命的連絡に當らざるべからず。軍憲を構成する下層兵士の革命への中立或は積極的拒否ないし参加は（今日から続けられる運動の相当の影響をうけたのちといえども）予断することは難かしい。

吾々としては支配階級の所有する軍事的防衛を計画的に破壊することが一地方的蜂起の前夜に於て為すべき行爲たることを同志は知悉せられたし、吾々は飽くまで蜂起を全き革命に結実すべき一切の技術的意を行なわなければならない。これは誰の任務であるか。それを自己の責務であると自覚する人々の任務である。

吾々はここに例証としてある一地方をあげるであらう。ある山脈と、ある大きな川河によりて自然地理的に一境を成す某地方があ

る。それは三町十二カ村をその天地に含む、その天地に於ては既に吾々は運動的基礎をもつ、村同志の活動（困難なる数カ年の革命的無政府主義啓蒙運動が過去につづけられ、青年には一部実践の熱意見ゆ）は基礎を樹立しているのである。それは熟考を持つて次の飛躍に移るべき先行条件を呈す。この地方は各都市に於ける社会テロル及び農村秘密団体の刺激（それは収用革命にまで高めることは同志諸氏の多大なる努力に於て果たされた離れ業である）によつて動揺せねばならぬ。この時、より広汎な全村的動向を形成するチャンスを作らねば駄目だが、この動揺に対する重圧は県警察部に本拠があるではないか。県警察部を吾等の行動によつて制××××村の動揺はそれが大なる力となる前に潰滅するが、それらの制テロルは実行されつつあると見て、このチャンス形成と共に、同時に一校隊は警察及び軍憲の輸送通路たる鉄路（或地方では適宜の隧道）を破壊し早急なる出動をまづ不能に陥入せることが一任務である。一校隊は県政治中心地たる県庁都市の県警察部、県庁、銀行その他を爆破せねばならぬ。而してある革命新聞は民衆を誘導し煽情することが必要である。この地方的都市にはまた兵營がある。吾々はその武器庫を秘密裡に爆破せよ、その他諸般の手段をつくして、地方蜂起の最も有効なる努力を尽さねば革命は絶望となる。

この為めにする秘密行動的同志結合は、また今日の問題であり、この諸プランの協議また緊密に為されねばならぬ、この協議一般は、また今日の問題である。これを中心として革命的諸発展は有る。之は直接革命を迫行するものである。これを為す者は最も冷静にして大胆なる諸同志の責務である。かくて吾々は一方に於ては一地方区画を成熟せしめつつ一方に於てこれを革命的に掩護する軍事的行動によつて最後の蜂起に決定的な役割を演ずる。さらば革命の蜂起はただ一回のみ。吾等には、一定の崇高なる覚悟こそ重要である。吾等は有形的にギロチンを賭けて成さるべきことである。吾等は勝たざる可からず、自由郷最初の黒旗を樹てざる可からず、されどまた、幾人ぞ事の成否にのみ留意して大なる飛躍の前に躊躇することが出来る、吾等は人事を尽す。ただ従容として革命にのぞむ、吾等は呼応して蜂起せる一箇に先づ明確に自由コンミュンたることを宣言することが重要である。単なる暴動に非らざることを小陰謀に非らざることを明確にする所以だ、無政府主義革命たることを内外に知らしめざる可からず、その日よりの吾等が活動はよく筆紙につづすことは出来ない。ただ諸同志並に全民の大なる新天地の防衛と発展が奔流となつて充ち渡ることを想う。それは吾人をして莞爾たらしむるものである。

これ等、吾が革命の方法は諸同志の双肩にある、吾等は日夜ただ革命と解放を想う。その一日として休息なき今日の運動的努力が必ず革命の実を結ぶことを、ひたすら願っているではないか。吾等はここで今日、充分なる最後の決意をもって一切の飛躍を相互に誓う。

凡てに中央なければ吾等が方法に於ては全国相当の各一地方区画よりかく革命の烽火の燃ゆることが吾が方法である。地方的小都市にある諸同志は積極的にこの革命運動の動力たるものである。一区画に含まれる農村と小都市の散在せる同志の結合は革命的見地より

見て重大なることを再認せよ。一県には、この革命的烽起区画が二個ないし三個はある。この各区画は一県下的に連合し、より広汎に有効なる活動を起こし得る。全地の同志は既にそれを認識している。その活動状況であることを報知する。

若し、かかる各地方的の地方革命の烽起なければ都会に於てよしや暴動烽起しても成権力の為めに潰滅する。それは無政府主義革命たり得ず。無政府主義に於ける革命方法は既成権力の倒壊による新権力の把握たらず、それらの革命方法とは方法に別個のものを採ることとは当然の事理である。都会に於ける社会テロルは県に行える政治経済力の中心地たる県庁所在地に對する行動と同じく特に東京の如き中央政府所在地に於ては全同志及び全民の革命的動向を掩護する必要上、これらの権力をして無力化たらしめざる可からず。それには深大なる多数同志の全力的活動が強行されねばならぬ。裁判する裁判官、監獄、司法、憲兵隊、内閣の爆破、射殺は要求せられる。そしてまた勢力化するであらう。社会ファッシヨに對し積極的に勝たざる可からず、吾が仕事は山積せり、何んぞ安んじて空しく日を消すことが出来るか？同志一齊の活動を要求する。

而して、この暗々裡の活動は既にその緒につく。単一テロルでなく社会テロルは決意されている。

大都会は結局焼棄する。吾々は何等かの反革命的巢窟になる可き性質をもてる大都会を悉く、ある一定の時（地方烽起の前後に於て）に於ては之を烏有に帰せしめる何等かの方法を探り、都会民衆の Kommun への分散を有効絶対に誘起する。吾等は都会に於ても敵の活動を不能に帰せしむる為め、計劃されたるプランを持つ。糧食、倉庫、水道、放送局、停車場、通信機関、新聞社官庁、等々多数の重要物の占領を可能たらしむる一個の手段を採る。反革命的勢力の集中を阻害し個々バラバラとなし結局無力たらしむる手段を採らざる可からず、それは予じめ準備されねばならぬ。

過般四千の士官の軍事クーデターは、まづ内閣、閣議の席上に爆弾を投じ、各大臣を一挙に爆死せしめ行政権力を軍事的ファッシヨの手に納め、吾が国にクーデターを敢行し、ファッシズム、（以下原文ナシ）

附記

「吾国に於ける革命の完行に就いて」は昭和六年十一月著作当時の切迫せる情勢に直面して「農村青年社」革命の具体的方法論にして百部を発行し各府県の最優秀メンバー約七十名に密送したるものなり（司法省刑事局）。

（欠文となつてゐる第五項以下に自由 Kommun の樹立と、その軍事的防衛について詳述されていた。）